

第2回中道北小学校移転 住民説明会 会議録

日	時	平成28年1月28日(木) 午後7時00分～8時30分		
場	所	中道公民館 会議室	当日参加者数	72人
教育委員会	平賀委員長・長谷川教育長・数野教育部長・石川教育総室長・神宮司総務課長・高村学校教育課長・櫻林学事課長・田邊教育施設課長手・田村総務課課長補佐・村田総務課課長補佐・土橋総務課係長・山本総務課主任			
地区関係議員等	大木地区自治連会長			

1 開会

2 委員長あいさつ

3 第1回説明会での意見等について

事務局より、次の内容について説明。

- (1) 前回、建築物を移転せずに一定の面積が確保できると思われるエリアを、AからCの3箇所を示したが、次のとおり絞込みを行った。
 - ①エリアAについては、国が実施中の施設保全事業の事業エリアであり、農振法の規定により、事業終了(平成33年の見込み)から8年間(平成41年)までは学校用地にできないことがわかったため、除外した。
 - ②エリアCについては現在地から極端に移動することや位置的にも偏ってしまい、避難所等の社会施設の役割も考え合わせ、除外した。
 - ③エリアBのうち、第1回説明会で多く聞かれた「通学距離の考慮」や「児童館等からあまり遠くない場所」を考慮しつつ、これまでの教育環境が大きく変わらない場所であり、避難所等の社会施設の機能を継続できる、中央自動車道の北側の笛吹川寄りの場所を候補地案として提示することとした。
- (2) 現在の学校は、地震等の避難所とされているものの、学区一帯はハザードマップにより、最大5m程度の洪水予測が示されているため、洪水の際は中道スポーツ広場等の高台が避難所とされている。また、今年の鬼怒川の氾濫により、国が洪水想定をこれまでの100年単位から1,000年単位に見直すとの情報が入っており、予測推移が増加する可能性もあることから、学区内の高台に建設可能地がないかも検討したが、活断層を避けると民家の移転をお願いしなければ学校に必要な面積を確保できず、通学も不便になってしまうため、新校舎は候補地案のような場所に建設し、児童在校時には上層階に一時避難ができるよう配慮する。
- (3) スクールバスは千代田小で実施し、旧上九一色地区へのバス定期券の補助を実施している。千代田小については通学距離が4kmを超える児童がおり、高低差も大きく、営業バス路線がないところもあるため運行している。
- (4) 南小との統合については、現在の推計において平成33年度までは複式学級の発生には至らない見込であり、学校の地域での役割を考え合わせるとともに、現在、同様な学校は南小も含めて6校あり、全市的な適正化の検討を行ったうえで方針を決めていくべきものと考えているので、今回の移転に伴う統合の検討は行わないこととした。

4 候補地案等についての意見聴取

(1) 下曽根

候補地案の説明はよく分かった。

資料のその他にも書いてあるが、北側にリニア、南側に中央道という場所でいいのか。

そのような学校は他にあるのか。

(1-1) 白井方面からの通学距離は多少増えるが、中央道より南側という選択はないのか。

校舎は敷地の北側に配置するという説明だったが、敷地の南側にするとか、L字型の校舎にするといった工夫をすることによって、騒音も緩和できるのではないか。

自分たちが通っていたころは、中学校も同じ敷地にあり、中学校が北側で小学校は南側にあった。その関係で面積も広い。

校舎が南側にあってもいいのであれば、中央道の南側で面積が確保できるのでは。

回答

(1-1) 中央道の南側についても、教育委員会で検討した。

面積的には確保できるが、通学距離において現在地付近は中間といえ、白井にとっても下曽根にとってもあまり偏らない、現在地付近がよいという意見があったので、どちらにとってもあまり距離が変わらない場所ということを最優先にした。

中央道の南側も農振（農用地域）の除外をしなければならないので、県とも協議をしたが、市街地化した場所からはなれており、一帯が広い農地であることなどから、解除が厳しいと聞いている。

騒音についても、教育委員会で独自に周辺を計測したが、今回示した案の地より、中央道南のほうが数値は高い状況だった。

主な原因は、国道140号線が平地から土手に上がる場所のため（アクセルの踏み込みなど）騒音が大きかったと考える。

そういったことがあり、お示した案の地を第1候補とした。

(2) 上曽根

候補地案はおおむね妥当なところだ。

エリアAについては土地改良事業（を実施中）ということで（除外ができないと）なっているが、リニアが通る場所もそのエリアだが、面積などの基準があるのか。

前回の説明会でも、このエリアがいいんじゃないかという意見もあり、妥当だとも思ったが、(2-1) 土地改良で（学校がだめ）というなら、リニアも駄目なんじゃないか。

もう一点、この候補地案は面積が1,600㎡ほど減るということで、市内の他の小学校から見ても広いほうだと説明があったが、焼け細りの感が否めない。

前回の説明では、現在の施設はすべて取り壊しての移転ということだった。

(2-2) 場所的には最適だと思うが、今まで、ソフトボールは2面とれるなど広く使っていたところが手狭になる点についての説明をほしい。

回答

(2-2) 面積について、ご指摘のとおり1割程度狭くなるが、校舎レイアウトの工夫で現在の校庭と同程度の面積は確保できると考える。

意見を聴きながら有効なレイアウトを考えていく。

また、行事などの駐車スペースなどとして、現在の敷地の南側を一部利用するなどの選択肢もある。

(2-1) (エリアA周辺のリニア整備については) 鉄道事業は法的優先度の高い事業であるため、このエリアでも整備は可能である。また、整備面積の基準により解除されるということはない。

どうしてもここに(建てなければならない)という場合は、収用事業とするしかない。

追加質問

(2-3) 鉄道はいいが、鉄道整備に関して周辺が移転することについては、別の問題ということか。

回答

(2-3) 鉄道事業自体は可能だが、一般的な(今回の学校移転のような)事業は制限を受ける。(公共性の高さから)市町村事業より優先されることになる。

(3) 上曾根

候補地としては妥当じゃないかと思うが、白井地区と下曾根地区の方々が納得してもらえらなら、ここがいい。

ただし、騒音に関しては、(リニアの通過で)75dB、掃除機の音程度が出るから、2重サッシなどの対応というが、駅(の手前)3kmから車輪走行にはいるということも聞いているので、

(3-1) (通過時の騒音を防ぐために)フードを設置する方向で検討しているか。

回答

(3-1) 前回は回答したが、フードの件についてはご意見としていただき、リニアの担当に伝達した。

学校とすれば、当然フードがついたほうが音も小さくなるのでそのほうがいいという話もしていくが、技術的な面をJRに確認したところでは、フードをかけた前後にもある程度の距離を施工しなければならないと聞いている。

リニアが見えるまちという、観光面の意見などもあるので、各方面の調整を必要とすると考えている。

(4) 上曾根

(地元の住民は)これからずっと(ここで)生活していく。

完成すれば何便も通過することになる。

たとえ短い時間で（通過する）といっても、生活するものにとっては、少しでも騒音のない環境を望むはず。

(4-1) 中道の自治会としては、フードの設置を望んでいる。

子どもたちがここに住んで行けるように、ぜひ考えてもらいたい。

回答

(4-1) 教育委員会としても、静かになるほうがいいことは確かなので、意見として付け加えさせてもらう。

(5) 地区自治連会長

フードの問題だが、設置により12～13dB下がることになるので、そのことを推進していきたい。

子どもが、いい環境で学習できることが望ましい。

(5-1) 現在の学校の面積が約16,000㎡ということだが、同じだけの面積（の土地）は補償してもらえないのか。

回答

(5-1) 土地代については、軌道になるほかの土地も同じだが、軌道用地の幅22mの土地の購入費の支払いだけになる。

中道北小の場合、軌道を挟んで南北に土地が残るが、その部分は補償の対象ではない。

補足

この（候補地案として示した）場所は、（総合的に最良と考えるが）計測すると約14,400㎡しかとれないということ。

(6) 上曾根

(6-1) 今の面積が、全部補償されるのではないのか。

回答

(6-1) 機能補償といって、学校の機能が移転することを補償しようというものになる。

細かく言えば、土地についてはその部分しか（補償対象として）みられない。

(7) 上曾根

土地というのは面積より金額だ。

自分も含めて地権者が何人か来ているが、あまり変なことだと、リニア（の開業）なんかは、5年や10年、最高裁まで行って簡単に延びる。

だから、このことは本当に真剣にやってもらいたい。

いろいろな反対者もいる。

でも、通るからには仕方ないとなったら、小学校の移転くらいはせめて。

防音の問題などはみんな気にしているが、まずは小学校の移転問題が一番近いところにあるので、そのところをちゃんとやっておかないと、

(7-1) 2.2m幅しか買ってもらえず、面積が14,400㎡になってしまうなんて言われると、何の問題だか分からなくなってしまう。

(7-2) 他にも面積がとれるところがあるのだから、そこに移るなど、もう少し努力や工夫をしてもらいたい。

回答

(7-1) 誤解を招いてしまったようだが、JRの補償が出ないから土地が狭くなってしまったということではない。

(7-2) 今回示している案の地は、用水路や道路に区切られており、それらを簡単に付け替えることはできない。

そのため、この場所ではその面積しかとれない。

その隣にも農地があるが、そこも検討した。

面積的には同程度になるが、細長い土地であり、大きい水路に隣接しているので拡幅も難しく、校庭などレイアウトしづらい問題があった。

そういった様々な情報を総合的に検討して、最良と思われる場所を提案した。

(8) 下曽根

下曽根の子どもたちは、冬時間で、朝7時過ぎに集団登校の集合場所に集まっている。

まだ陽が出る前に集まっている。

帰りは、学年によって違うが、ついこの間までは暗くなってから帰ってきている。

そういう現実があつて、小学校を移転するのに当たっては、案は200mあまり下曽根寄りになるということだが、もうちょっと下曽根寄りにしたほうが、白井と下曽根の間になるのではないか。

新しく学校を作るのであれば、できるだけ中間に持ってきて、白井と下曽根の両方に良いようにしたほうが良いのではないか。

候補地案の提案理由のひとつに、児童館と駐在所の近くという説明があつたが、これは別の次元の話だ。

既存の施設があるからその近くへ（と考える）というのは、もうちょっと子供のことを考えれば、すぐに出来ないにしても、そちらの移転も考えるべき。

そこに（そういった施設が）あるから学校を遠くへ移したくないというのは、発想が間違っていないか。

繰り返しになるが、

(8-1) 白井と下曽根の間は、もう少し西寄りになるのではないか。

距離的な部分で再検討してもらいたい。

また、(候補地案は) 中央道とリニアの真ん中へ作ろうという。

リニアの問題は今、騒音だけではなく磁場の問題など、いろいろな議論がある。

まだ世界中どこにもなく、今から実証実験的なことをやっていかなければならないということで、危険度が想定できるという中で、リニアに近い（場所になっている）という。

基準がクリアしているからいいというのが、そういう問題じゃないだろう。

それを出来るだけ避けるというのが、最善の策だ。

せめて片側だけ、中央道には近くなってしまいが、反対側（中央道の南側）なら騒音や磁場の心配がないよ、という部分のところへ設置するべきではないか。

あえて火中の栗を拾うような、いろいろなことが心配で、今からどうなるか分からないというようなところを子どもたちの教育の場とすることは、将来に禍根を残すのではないか。

(8-2) 出来るだけ心配（のある場所）は避けるべきだ。

回答

(8-1) 中間地点はもう少し南側ではないかということだが、(候補地案は) 前回の説明会で多く出た「現在の学校の近くがいいのではないか」ということを(尊重した)もの。

学区が東西に長いということもあり、現状から変化すると、(学区の両端の) それぞれから不満も出ると思う。

教育委員会としても、現在地の近隣がよいのではないかと考えているので、この場所を示した。

(8-2) 磁界などの心配があるところに建てるのかということについては、「危険はまったくくないのか」と問われれば、自信を持って「大丈夫」といえるわけではないが、JR東海からも、基準を満たしているので大丈夫だということが、国も関わる中で示されているので、「大丈夫ではないか」という考えで候補地案を提案している。

追加意見

今日は住民説明会だから、この案を承認する会ではないと考えるが、他の質問にも(この場所) ありきで回答している。

「検討する」とか、「それもひとつにはある」、「そこにはこういう問題点がある」といったことが出てこない。

これが行政のやり方だろうが、違和感を感じる。

(説明会) はこれで終わりではなく、まだ続くと思うが、もう少し柔軟性を持って対応してもらいたい。

また、前回の説明会で、今の学校の近くにしてほしいと言ったのは、上曾根の人たちで、白井や下曾根の人が言ったわけではない。

そこは、誤解のないようにしてもらいたい。

北の人たちの全員が、今の位置がいいと思っているのではない、そう思っているのは学校周辺の住人たちだ。

(9) 白井

前回の説明会の際、想定として何かたたき台になるようなものがないと、それについての論議が進んでいかないであろうということで、教育委員会としての腹案があったら出してほしい

と要望した。

住民意見を集約した中で、今回の候補地案を出したのではないか。

次のステップに行く段階とすれば、(今回)意見が出たように、再度エリアB(の中央道より南)を想定した候補地を選定した場合はどういう状況になるかについてを、次回の説明会に示す必要がある。

いずれどこかで集約し、決定していかなければならない。

責任を持って決定するのは行政側だと思う。

距離的な問題はどうなっているかなどについても、ぜひ出してもらいたい。

そこで、2点考慮してもらいたい点がある。

候補地案の騒音の問題で、75dBという数値が出てきているが、これは結構な騒音ではないか。

騒音の対策としてフード問題が出たが、これはプロジェクトの違いで、市レベルの事業より国が優先されるのであれば、学校としてどのような対策をとっていくのかについて、もう少し細かな対応策を示してもらいたい。

(9-1) 例えば2重サッシの問題や空調の問題などを含めて、(騒音を)どう解決するかについて、見通しを出してもらいたい。

また、今の学校の敷地でも同じような条件があったと思うが、防災関係で一番我々が考えていかなければならないのは、地域の子どもたちの安全ということだ。

環境の整備と同時に、防災関係の安全面について考えると、例えば浸水想定が2~5mで、1.5倍(になるかもしれない)という話だった、そして液状化現象が危険度大ということが想定として分かっているということで、今ある学校の敷地でも同じような対応を考えられているとは思いますが、

(9-2) 移転することに関わって、防災関係の対応策をどのように考えているか。

他の候補地、例えば高台では移転が出来ないというところは、結論として出しているようだが、だとすれば、この笛吹川に近い場所での対策については、具体的にどのように考えているかについても、示してもらいたい。

回答

(9-1) 騒音対策については、校舎建設の際にはそれなりの対策を行うことを前提として、ここを提案した。

それは中央道の南側になったとしても、対策は行う。

(9-2) 防災面についてだが、液状化現象については(硬い地盤までの)杭打ちを行うなどで、安全性が確保できる。

浸水関係については、(笛吹)川が決壊したり、水が土手を乗り越えてくるような場合は、避難所として機能しないことや、そのような状況では、周辺から避難してくることも不可能となるため、今後も浸水(洪水)の際は(現在と同様に)中道スポーツ広場など、洪水避難所(に指定されている場所)に避難していただく。

ただし、子どもたちが学校にいる間に洪水が起こった場合には、グラウンドのレベル(高さ)を上げて建設することで、一時的に3階や屋上に避難し、安全が確保できるような校舎にする。

補足

市の建設部から、(国で) 浸水想定が見直されるという情報を得て、現在の見込みとして1. 5 倍の可能性もあることから8 m程度を想定した、ということなので、確定されたものではない。

今年の6月くらいまでには公表されると思うが、今の学校の建て方では、2階が4 mくらいなので、5 mであれば3階は大丈夫だが、8 mでは3階の床に達してしまうので、技術的にその深さでも3階に避難できるような対策をとっていく。

なお、避難所としては、洪水については中道スポーツ公園と中道南小となっていることを確認し、児童が在校中に洪水になってしまった場合にも、3階に避難できるような対策をとることも検討した上で、この位置が最適ではないかと考えて示している。

(10) 上曾根

先ほど、「児童館は別(の次元の話)だ」という意見があったが、実際、自分の子どもにどこがいいかを聞いたら、やはり児童館の近くがいいと言っている。

また、駐在所が近くにあったほうが「僕らも安心して通える」と話している。

去年の話だが、うちの子供が学校から児童館に行く間に、ふざけ合っていて転んでしまい、骨折をしてしまったが、そういう例があるので、出来れば学校から児童館までの距離はあまりないほうがいいのではないかと。

(11) 上曾根

通学の距離については、前回の話で(現在の児童の最長が)白井で2. 4 km、下曾根で3. 4 kmということだったので、現在地より500 mほど下曾根寄りになるのかなと思い、我々の想定では中央道より、少し西側になるのではないかと考えていた。

今日の結果(候補地案)を見て、これも想定の中かなという感じもした。

中央道の南側では、農振を外すには候補地案より困難だとか、国道140号線が近くなるから騒音が少し大きくなるというようなことを説明されたが、それは防音対策で(対応)出来る。ただ、磁場の話が出たが、高圧鉄塔の近くの家は(地価が)安いという話も聞く。

それも磁場の影響でそういうことになっているのではないかと。

(候補地案は)前回の説明会の意見をまとめて、うまく(設定)したものだなと思ったが、そういうことを考えると、

(11-1) 高速道路とリニアに囲まれた場所で、上曾根や白井の人たちが安心できるのかなと思った。

回答

(11-1) この(候補地案の)場所を選んだ理由は、繰り返しになるが、今の学校環境をなるべく変えないようにということを(念頭に)選んだ。

また、(磁界等については)安全であるという前提の下で、選定した。

今も安全であると思っている。

(12) 上曾根

児童館についてだが、他の市町村では学校を児童館に使っているところもあるようだ。

(12-1) 一番安心なのは、学校が終わってから(学校外を)移動することなく児童館にいけること。

(12-2) 駐在所も移動は可能だから、近くに持ってくるといえば、行政の力で出来るのではないか。

回答

(12-1) ご意見のとおり、学校の中に児童館があるというところもある。

学校と離れたところにあるということの経過は把握していないが、将来的に、今の児童館を建て直すような時期には、改めて検討する必要があると思う。

(12-2) 駐在所の移転が、行政の力で出来ないかということについては、警察への要望は出来るが、警察がそこに設置した理由もあると思うので、対応してもらえるかは分からない。

そういう希望があるということは、承知しておく。

(13) 下曾根

小学校の6年間、子どもたちがずっと過ごす場所なので、音の問題はいちばん気になる。

対策として2重サッシであるとか、空調機で対応できるというのが、子供のことを考えると、環境のいい校舎、教室で授業を受けることが(望ましい)。

窓を閉めて、空調機で6年間過ごすことが、環境のいい校舎とはいえない。

環境のいい、健全な学校というのは、窓が開けられ、空調機がなくても過ごしやすく、自然の風が通って6年間過ごせる(ものなので、そのような)場所の選定をしてもらいたい。

(14) 下曾根

用地のことは細かくて分からないが、教育委員会で考えたことは、一般的には行政だとか土地の問題とか、資金の問題だとかという方向から考えていることだ。

先ほど少し声が上がったが、実際に今通っているお母さんたち、お父さんたち、子どもたちの中で、ここが候補地になったら、いろいろな不都合な問題が出てきている。

朝早く出かけて、夕方、真っ暗にならないと帰れないという意見も出たが、要望としては、(14-2) 市側と父兄の方々に、懇話会のような形で、いろいろな意見のやり取りをする場を設けてほしい。

この住民説明会は前回も出席したが、なかなか意見も出ない。

これから何回、どのような方向に、この説明会がもっていかれるのかということが疑問だ。

すごく意見は出ているかもしれないが、市側では、(この候補地案)ありきの説明をしていると思う。

まだまだ決定ではないと思うので、できるだけ意見のやり取りをして、本当に子どもたちが

安心して（過ごせる場所を検討する）。

前は中央道よりずいぶん離れたところにあったが、ここでまた、リニアと中央道の真ん中に入ってしまうということは（環境が悪くなる）。

磁場の問題などいろいろある。

そういうことは、長い間かからないと子どもたちに（影響が）出てこないということがあるので、とても心配になる。

できれば、そういうことも皆さんが納得できるような形で、進められたらいいと思う。

(14-2) 住民説明会のこれからの方向性なども説明してほしい。

(15) 下曽根

中央道とリニアとの真ん中であって、どっちも心配だということや、もう少し下曽根と白井の中間ということで

(15-1) 中央道の南西側を提案させてもらっているが、それはもう論外ということになるのか。

回答

(14-2) 今後の住民説明会をどのように進めていくかだが、今日示した候補地については、平坦である程度面積が取れ、通学距離や学習環境があまり変わらない場所がよいという視点で示させてもらった。

しかし、中央道を挟んだ南側がいいのではないかという意見もいただいたので、持ち帰って、それぞれのメリット、デメリットを検討し、次回の説明会の中で（検討結果を）説明し、納得してもらった上で、（候補地の）決定をしていきたいと考える。

(15-1) 中央道の南側は絶対ないのかということについては、今回示した候補地案でなければならないということを説明してはいないので、いろいろな意見を伺った上で決定していきたいと思っている。

補足

この（今回示した）候補地（案）については、教育委員会でも様々な議論をし、教育委員会の意見として、ここが最良だろうという考えを示したもの。

教育委員会の考えを示してほしいという、前回の要望に対して示したもののなので、ここがありきということではない。

なので、このようなことがあるからこちらがいいという意見があれば、いろいろな方から意見をいただきたいという主旨で、説明会を開催している。

もっと適地があるという意見は出してほしい。

補足

(14-1) 父兄の方を対象に懇話会をとということについては、今回の説明会についても、学校を通じて開催通知を出している。

（現在は、住民や父兄を区切らず）限なく参加し、意見をもらいたいということで開催している。

いずれ学校規模などの話になれば、父兄の方と詳しく話をしていけないといけない、と考えている。

今は候補地を選定していく目的なので、全体的な説明会をしていきたいと考えている。
夜間より土日に開催した方がいい、というような意見ももらっているが、平日の夜間のほうが多くの方に集まっただけなので、都合の悪い方もいるとは思いますが、この機会にできるだけ参加してもらいたい。

(16) 上曾根

地区名を言うと、それぞれの地区に近いほうがいいという話になってしまうので、言い辛いが、教育委員会の考え方の「今の小学校と環境が変わらない」という前提であれば、この候補地（案）が妥当だ。

ただ、いろんな点を考えると、エリアBの、もう少し笛南中寄りの場所も、候補地として一回考えてみるのも（ひとつの）策かなと思う。

一度、その辺りも検討してもらった方がいい。

そのへんにもいろいろな考え方がある。

(16-1) 今回これでは、一箇所しか案がないから、反発もあると思うので、複数の案を出していったほうがいい。

(16-2) また、前回は質問したが、だいたいどの位を目安に進めていくのか、教えてほしい。

回答

(16-1) 複数の候補地をとということについては、今示している場所以外に考えないということではない。

(他の) 候補地については、検討する。

(15-2) スケジュールについては、現在、移転候補地の絞込みを行っているが、移転地を決定し、農地の転用を行い、用地交渉に入り、測量や埋蔵文化財の調査、土地の造成、建設、移転といった手順になると考える。

このことから、移転地が決まってから、一連の作業に早くても3～4年かかると見込んでいる。

いつまでにとという点については、JRと協議を行う中では、河川を越える工事部分になるため、水量が少ない時期しか工事ができない関係で長い工事期間が必要であることや、小学校の移転を年度途中に行うことは原則考えられないことなどを考慮し、早ければ平成32年、あるいは平成33年の（3月）までには移転できたらという考えだ。

(17) 上曾根

(候補地案は) リニアの軌道と中央道に挟まれた場所だが、広域の地図で見ると、リニアと中央道が交差している。

地図上では中央道が下になっているが、中央道は低い高架の場所なので、リニアはもっと高い高架で交差できるのでは。

(17-1) その場合、現在の中道北小を通る高架の高さを把握しているのか。

(17-2) また、候補地とは多少距離があるので、日照の問題はあまりないと思うが、両側を高

架に挟まれるのは、だいぶ閉鎖的になるのではないか。

自分は都心の小学校に通っていたが、ビルに囲まれた中で通学していたため、暗いイメージを持っている。

せっかく広い場所があるのだから、子どもたちの気分も閉鎖的にならないように、環境に配慮してもらいたい。

(17-3) 磁場の問題も意見で出ており、安全と考えているという説明もあったが、長いスパンで考えて、何か起こってからでは遅いし、子どもたちが6年間、毎日通うところなので、その辺りのデータも、JRから取り寄せるなりして、きちっと考察してもらった上で、発表してもらったほうがいい。

結果的に中央道の南側に候補地が選定できないのか、可能性があるのかないのかというところを、もう少し突き詰めた説明してもらったほうが、皆が納得できるし、子どもたちにも説明しやすい。

回答

(17-3) 磁場の問題については、確認をしていきたい。

(17-1) 高架については、30mから40mとなっているので、かなり高い場所を通る。

(17-2) 今回示した候補地案では、リニアの軌道は校舎の北側になるので、日照の影響はないと考える。

地区自治連会長まとめ

第2回の説明会ということで、活発に意見が出された。

今日（提示された）これは「案」と書いてあるから、ここで決定したということではなく、たたき台がないと漠然としてしまう（ので提案された）ということだ。

当初から言っているように、子どもたちが安全・安心であればどこでもいいと思うが、教育委員会や行政は、そのあり方からいろいろ検討している。

地域のことは別として、中央道の南側にというような幅広い意見もでたので、そういうことを踏まえながらも一度検討してもらい、また皆さんの意見を聴くということによろしいか。

5 その他

これまでの意見を踏まえた検討の結果の報告と意見聴取のため、検討の時間をいただきたいが、できるだけ早く、次回の説明会を開催したいと考えている。

6 閉会